

農業農村地域活性化ツール「農村 GO」の実装方針の検討 Consideration of Implementation Policy for the Rural Revitalization Tool 'Rural GO'

○大塚健太郎* 浅野珠里** 有村穂高*** 小島悠揮*** 乃田啓吾**

○OTSUKA Kentaro ASANO Juri ARIMURA Hotaka KOJIMA Yuki NODA Keigo

【はじめに】

農村 GO とは、農業・農村地域の隠れた魅力を位置情報ゲーム上に表示し、都市部の住民が農村へ赴くきっかけとして、将来的な農村地域の活性化につなげる取り組みである。農村 GO プロジェクトは 2020 年度から活動しており、これまでの 3 年間で岐阜県内を調査し、得られた農村地域の魅力を作成した HP 上で公開し、農村 GO ゲームを作成し活動内容を報文として公開した。今年度は農村 GO ゲームの改良と、世界かんがい施設遺産をめぐるヘリテージツーリズムや福島の震災遺構による震災からの教訓伝承等への応用といった実装方針を検討した。

【農村 GO ゲームの改良】

農村 GO ゲームを改良するにあたり、大きく変更した部分は 3 点ある。1) 獲得点の導入、2) 魅力ポイントのカード化、3) イベントの導入である。まず、魅力ポイントにチェックインしたユーザーに獲得点を付与するようにした。獲得点のランキングを公開することで、長期的なユーザーの参加を促すことができると考えられる。次に、チェックインによって魅力ポイントの特徴・情報が 1 つ公開され、入手カードとして保存されるようにした。各魅力ポイントへのチェックインは 1 日 1 回まで、最大で 4 回まで可能であり、2 回目以降のチェックイン時には新たな特徴・情報が入手カードに加わる。現地での解説資料設置が不要であり、観光業界における DX 化の事例につながると考えられる。さらに、任意の地域、任意のテーマに沿った魅力ポイントをまとめてイベントとして登録できるようにした。これによりユーザーは関連する魅力ポイントを容易に見つけることができるようになった。



図-1 魅力ポイントのカード化

Figure.1 Carding of Attraction Points

*岐阜大学大学院連合農学研究科(The United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University)

**東京大学大学院農学生命科学研究科(Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo)

***岐阜大学工学部(Faculty of engineering, Gifu University)

キーワード：農村振興

【ヘリテージツーリズムへの応用】

遺産を観光資源として活用するヘリテージツーリズムを目的として、世界かんがい施設遺産を魅力ポイントとして搭載した。搭載に必要となる写真，名称，緯度経度，住所，特徴（最低1つ，最大で4つまで）の情報収集を世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議委員会会員に依頼した。なお，情報収集にあたっては，農村振興局海外室，府県庁，市区町村役場および土地改良区の協力を得た。その結果，28施設から164か所の魅力ポイントを提供していただいた。魅力ポイントを2つ以上提供していただいた施設は，それらの魅力ポイントを1つのイベントとして登録した。実際に「曾代用水GO」を実施したところ，情報収集の依頼，カード化によって魅力ポイントの魅力向上が確認できた。一方で，魅力ポイントやイベントの設定を工夫することで，より利用しやすくなると感じた。

【震災復興への応用】

農村GOは魅力ポイントの設定でユーザーを移動させることができる。この特徴を応用して震災復興に活用した。福島県飯館村における東日本大震災の震災遺構の8カ所を復興ポイントとしてゲームに搭載した。これらの復興ポイントをまとめて「福島復GO」というイベントを作成した。ゲーム上で獲得できるカードには震災遺構の情報や説明を入れ，ユーザーが震災遺構を巡ることで震災について考えるきっかけとなることをねらいとした。実際に「福島復GO」を実施した際には，除染前後の違いが分かる土壌断面などから震災について学ぶことができた。また，福島市内の荒川治水事業に関する現地調査も行い，砂防ダムなどを魅力ポイントとして登録した。

【おわりに】

今年度は農村GOを改良し，獲得点とイベント機能を追加した。また農村GOを用いた応用事例としてヘリテージツーリズムと震災復興への活用を紹介した。多様な目的にあわせて農村GOを活用することで，農業・農村地域活性化だけでなく環境教育，防災教育，また地域振興にも利用できるツールとなる。

これにより地理的理解能力，計画性やコミュニケーション能力，また，災害対策や都市計画の課題に対する能力の向上が期待でき，人材育成に資すると期待できる。

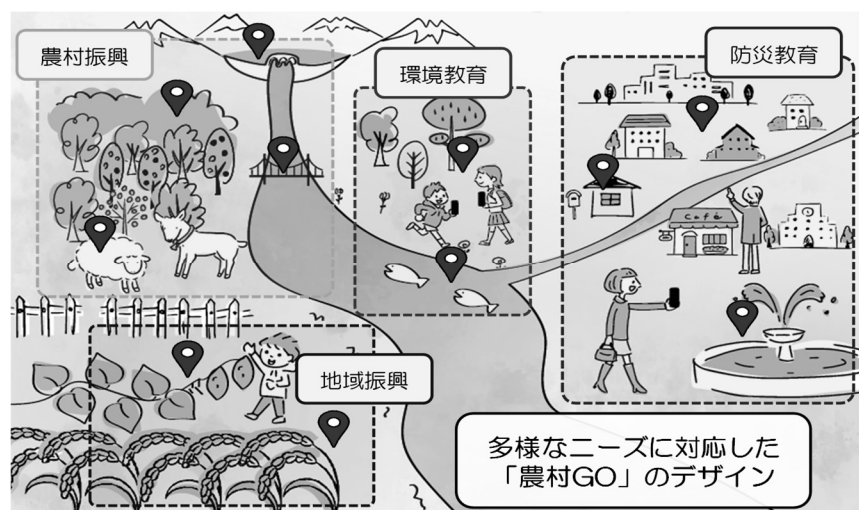


図-2 農村GO実装方針のデザイン

Figure.2 Design of Rural GO Implementation Policy